

長野県神社庁報 第138号

令和6年1月1日発行：長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会
(長野市箱清水1-3-28 電話026-232-3355 FAX026-233-2720)



神社庁本殿遷座祭 令和5年10月12日

目 次

目次・日誌抄	2
年頭の御挨拶	4
本殿遷座祭	5
特別寄稿 「薙鎌の新たな理解を目指して」	10
第五十五回全国諏訪神社連合大会	14
敬神婦人連合会総会	15
神道青年会報告	16
神棚について	17
神宮大麻曆頒布始奉告祭斎行 寄附者顕彰・辞令	18
令和四年度神社庁歳入歳出決算書	19
年賀広告	20
新神社庁氏子会館	24

日誌抄

(令和五年七月～令和五年十一月)

七月

- 一日 月次祭 於 千曲市
- 三日 支部長懇談会 於 千曲市
- 四日 新庁舎施主検査
- 四日 教化部合同委員会
- 五日 庁舎氏子会館建設委員会
- 七日 神社庁監査会
- 八～九日 雅楽研修会 於 深志神社



- 十一日 人事諮問委員会 理事会
- 十二日 辞令伝達式
- 十二日 総代会監査会・役員会
- 十四日 庁報編集委員会
- 十八日 教化部青少年対策推進委員会
- 二十日 第百三回定例協議委員会
- 二十一日 庁舎氏子会館建設委員会 (特別委員会)
- 二十五日 教育関係神職協議会役員会
- 二十八日 全国教育関係神職協議会全国大会 於 福島県

八月

- 一日 月次祭
- 二～三日 祭祀舞研修会
- 四日 神政連具本部役員会

九月

- 四日 庁舎氏子会館建設委員会 (特別委員会)
- 六～七日 初任神職研修会(前期)
- 八～九日 靖國神社参拝旅行
- 十八日 連合大会地元打ち合わせ会 於 大町市
- 十九日 長野県教育関係神職協議会総会 於 上田市
- 二十二日 上皇・上皇后両陛下御奉迎 於 軽井沢町
- 二十四日 教化部調査委員会
- 二十四日 神宮大麻曆頒布委員会
- 二十五日 神政連具本部臨時代議員会
- 二十五日 総代会支会長会
- 二十九日 上皇・上皇后両陛下御奉送
- 二十九～三十日 初任神職研修会(後期)

- 一日 月次祭
- 四～八日 東海地区中堅神職研修会 当番 岐阜県
- 五日 祭祀委員会 於 飯山市
- 六日 飯笠山神社 第五十八回 全国神社 総代会大会 於 群馬県
- 七日 高崎市 東海五県参事会 於 岐阜県
- 十二日 神殿例祭



十三日 庁舎氏子会館建設委員会
(特別委員会)
十四日 神社本庁教学研究大会
於 神社本庁
十七日 神宮大麻暦頒布始祭 於 神宮
二十一日 県敬神婦人連合会役員会
二十九日 新庁舎引き渡し
二十九日 庁舎清祓

二十九日 理事会

一日 月次祭
五日 神宮大麻暦頒布始奉告祭

十月



五日 調査委員会 於 深志神社
十二日 庁舎本殿遷座祭
十三日 遷座奉告祭
十六日 庁報編集委員会
二十日 第七十八回長野県神社庁・
長野県神社総代会連合大会
於 大町市
文化会館

二十日 神社本庁
定例評議員会
二十七日 教化部青少年対策推進委員会
三十一日 辞令伝達式



一日 月次祭
六～七日 県内紅葉会 当番 武水別神社
七～八日 宗教法人実務研修会
於 JA長野県ヒルアクトイホール
七～十二日 神社御朱印展 於 佐久市
あいとびあ白田

九日 教養研修会 於 戸隠神社
十日 神社庁監査会
十三日 教化部役員会
十五日 県敬神婦人
連合会総会
十六～十七日 東海五県紅葉会
於 岐阜県

二十一日 規程審議委員会
二十四日 神社庁新嘗祭
二十八日 東海五県
神社庁長参事会
於 岐阜県
二十八～二十九日 全国教化会議
於 本庁





年頭の御挨拶

新年あけまして おめでとつございます。
 健やかに清々しく新たな歳を迎えられたこと
 とお慶び申し上げます。
 昨年は内外とも多難な年ではありませんでしたが、
 本年は穏やかな年であることを祈念致すところ
 でございます。
 さて、長野県神社庁舎氏子会館建設事業に
 対しましては、関係各位の御協力により、昨年
 九月に完成し、十月には遷座祭が斎行されまし
 た。感謝と御礼を申し上げる次第であります。
 また県総代会諸事業につきましても格別のご

理解、ご協力、ご努力を何卒宜しくお願い申し
 上げます。
 昨今の数々の天災また政治の混乱に起因する
 国内外の諸問題は混迷を極めておりますが、私
 たちは神の恵みに感謝し祈願する者として、一
 致団結し危機を乗り越えて行かねばなりません。
 地域の絆はもとより、地域を越えた絆をも確か
 なもととし、人々が明るく元気が出るよう後押し
 していきたいと存じます。
 今年は平和で平穏な幸多い年となりますよう
 念じつつ年頭のご挨拶といたします。

長野県神社総代会 会長 藤村 吉彦



年頭の御挨拶

謹んで新年の御祝詞を申し上げます。
 県内各神社の神職総代氏子崇敬者の皆様には、
 清々しくお揃いで新年をお迎えになられたこと
 とお慶び申し上げます。
 昨年中は県神社庁の庁務執行に、深い御理解
 と絶大なる御協力を賜りまして誠に有難う御座
 いました。お陰様をもちまして新庁舎の建設が
 相成りましたこと、心より御礼申し上げます。
 本年も何卒宜しくお願い申し上げます。
 畏くも天皇皇后両陛下におかせられましては、
 愈々お健やかにお過ごししの趣、誠に慶賀の極み
 に存じます。

神宮の御事につきまして、神宮大麻全国頒布
 一五〇年の佳節も迎え、神棚奉斎、神宮大麻と
 氏神様の神札を共に祀る意義啓発に更に努め、
 来る次期神宮式年御遷宮を盛り上げて参りたい
 と心新たに致すのであります。
 昨年は、新庁舎建設上棟祭、遷座祭・遷座奉
 告祭を斎行致しました。今後、竣功祭をもって
 皆様にお披露目が出来ます。今年が平穏無事の
 良い年でありますことを願い、皆様の益々の御
 繁栄、御健勝をお祈り申し上げます新年の御
 挨拶と致します。

長野県神社庁 副庁長 水野 邦樹

長野県神社庁舎氏子会館建設
 本殿遷座祭

長野県神社庁舎・氏子会館建設事業に伴い、長野県神社庁が所掌する県内のすべての神社祭神を奉斎する神殿の本殿遷座の一連行事を行った。

本殿遷座祭は、全国それぞれの神社にあっても極めて重要な祭祀であると共に、神霊の移御を伴う厳儀であるので、神社庁では県内全域の神職が主体となり本殿遷座祭を奉仕し、翌日の本殿遷座奉告祭には、工匠・地域関係者と共に公的報賽者として長野県神社総代会が参列した。

九月二十九日

○新庁舎清祓 時刻午後二時

神社庁理事奉仕

十月十二日

○遷座の儀 時刻午後六時

手水 氏子会館玄関前

対揖 齋主以下祭員は小指の後、順次列次を整へ、二階の祭場に参進する。

修祓 齋主以下祭員は、二階祭場の所定の座に至り、大麻・塩湯で祓いを受ける。

齋主一拝 齋主は正中に進み一拝す。諸員は之に倣う。

開扉 齋主は仮殿の御扉を開きて側に候す。此の間奏楽。警蹕。諸員磬折。

祝詞奏上 齋主祝詞を奏す。

齋主殿内に参入す 齋主は覆面、手袋を著けて殿内に参入し、奉遷の準備を整へる。副齋主は覆面、手袋を著け齋主を介添えする。

遷御 此の間奏楽。警蹕。諸員磬折。齋主「御」を奉戴。諸員前後陣に奉仕し参列者供奉す。所役絹垣を立て、齋主「御」を辛櫃に奉遷す。出御の際、典儀笏拍子を打ちて消灯を合図。

召立 召立の儀にて列次を整へる。遷御の間、伶人楽を奏し、警蹕所役警蹕を行ふ。

仮殿での奉仕者

所役	氏名
齋主	滝 庁長
祓主	宮坂副庁長
大麻	水野副庁長
塩湯	立澤 寿江
警蹕	羽田 浩一
警蹕(行列)	立岩 千尋
警蹕(行列)	若槻 徹也
絹垣	清住 邦廣
絹垣	越取 寛昭
祝詞後取	市原 日貴
前行及前導	内山 隼人
陰灯	極意 靖世
陰灯	水科 美香
辛櫃	八木 勇三
辛櫃	平山甲之介
案後取	森井 広宣
薦後取	隠岐有紀子
伶人	紫芝 光司
伶人	花畑 樹彦
伶人	宇佐美真弓

本殿での奉仕者

行障	五明 健浩
行障	宮沢 靖久
絹垣	片山 求
絹垣	高山 岳人
絹垣	高橋 穰
絹垣	立澤 俊輔
絹垣	押森 慎
絹垣	松井 泰智
陰灯	毛利ゆき乃
陰灯	小間澤智子
塩湯	鷹野 健
警蹕(閉扉)	水澤 貴文
警蹕(行列)	宇治橋牧子
警蹕(行列)	上條 雅彦
祝詞後取	小間澤貴子
前行	勝山ひろみ
布単	遠藤 綾子
布単	山越 秋穂
伶人	富岡 清彦
伶人	牧野 禎彦
伶人	坂井 美春

※仮殿より現庁舎玄関前に至る

齋主は辛櫃より「御」を奉持し移動用車両に乗車する。

出御終りて副齋主御簾を下ろす。

※新庁舎前より本殿

「御」奉戴車両の到着後、絹垣をめぐらし、齋主「御」を奉戴し車両より進み出て、所役行障を捧持ち絹垣の前面を覆ひ、列次にて本殿へ進む。

入御

此の間奏楽 警蹕 諸員磬折
著御に先立ち、副斎主本殿の御
扉を開く。

行障所役左右に分れ、斎主本殿
へ昇階、「御」を神座に奉安し、
一拝する。絹垣所役は奉安終る
まで絹垣を奉仕する。奉安終つ
て、典儀笏拍子を打ちて点灯を
合図する。

斎主御扉の側に候し諸員所定の座に著く

祝詞奏上 奏上の間諸員磬折する。

斎主拝礼 全祭員列拝

参列者拝礼 此の間奏楽

- 1、長野県神社庁松村健悟理事(そ
の他理事は列拝)
- 2、宇治橋淳顧問
- 3、藤村吉彦総代会長
- 4、白鳥俊明協議員会議長

閉扉 此の間奏楽 警蹕 諸員磬折

斎主一拝 諸員之に倣ふ

対揖 斎主以下諸員は、典儀の笏拍子
を合図に対揖。

十月十三日

○本殿遷座奉告祭 時刻午前十一時

手水

参進

対揖 新庁舎事務室前に列立し対揖。

斎主以下祭員所定の座に著く

修祓 斎主以下祭員は、大麻・塩湯よ
り祓いを受ける

斎主一拝 諸員之に倣ふ

献饌 此の間奏楽

祝詞奏上 此の間諸員磬折

楽を奏す 浦安舞 舞人 小穴真希

斎主玉串拝礼 祭員列拝

参列者玉串拝礼 此の間奏楽

- 1、宮坂信廣副庁長(神社庁理事・
監事)
- 2、藤村吉彦総代会長(総代会理
事・監事)
- 3、宇治橋淳顧問(顧問・参与)
- 4、白鳥俊明協議員会議長(支部
長・支会長)
- 5、丸山肇庁舎氏子会館建設委員
(丸山・富岡)

6、中村建築研究所(会長 高橋
賢二)

7、北野・アスピア共同企業体(執
行役員 塩沢 豪)

8、健御名方富命彦神別神社(役
員 伊倉順治)

9、加藤久雄日本会議会長

10、寺島頼利箱清水区長

撤饌 此の間奏楽

斎主一拝 諸員之に倣ふ

次に斎主以下諸員退出 此の間奏楽

対揖 新庁舎事務室前

所役	遷座奉告祭奉仕者
氏名	役職
斎主	滝 和人 神社庁長
副斎主	水野 邦樹 神社庁副庁長
祭員	有賀 寛典 神社庁祭式講師
祭員	宮澤 千尋 神社庁祭式講師
祭員	諏訪 雅彦 神社庁祭式講師
舞人	小穴 真希 神社庁浦安舞講師

*建設事業も遷座によって大きな節目
を迎えました。今後、引越し、旧庁
舎解体、竣功奉告など続いて参ります。
斯界を担う次世代に継承する責務を果
たすために、なお一層のご協力をよろ
しくお願い致します。



遷座奉告祭



遷座



伶人



遷座奉告祭 浦安の舞



遷座祭 集合



遷座奉告祭 集合

御挨拶

令和五年十月十三日は、明治十一年に明治天皇御自らこの地に臨まれ、眺望を「佳き眺め」と御嘉賞賜つてより一四五年、また昭和三十三年の旧庁舎の竣工より六十五年、そして今上陛下御即位五年という、正に御神縁の導きによる長野県神社庁の歴史に永久に残る記念すべき日となりました。

平成二十八年より開始しました新庁舎建設事業も昨年の九月十二日地鎮祭、本年三月七日上棟祭、五月十八日仮殿遷座祭の諸祭儀を経て、昨晩遂に御本殿の遷座が叶い、本日御遷座を寿ぐ「遷座奉告祭」の斎行を皆様と共に迎えられたことは偏に関係各位の御理解と御協力によるものであり、心より感謝を申し上げます。

また建設工事についても期間中事故等の大過なく無事に納められましたことは、設計担当の中村建築研究所及び施工担当の北野・アスピア特定建設工事共同企業体の皆様を始め県内神社関係者の至誠による神明の御加護の賜物であると心から深く感謝申し上げます。

歴代の建設委員及び神社庁役員、殊に県内神職各位には多大なご負担を様々とお願いを申し上げましたが、皆様よりの心強いお力添えを頂戴し本日を迎えられましたことは県内神社界の愈々の興隆発展を確信するに充分なものであります。

本日の奉告祭をもちまして本事業も大きな節目を迎えますが、今後移転作業や旧庁舎の解体等が続いて参ります、引き続き本建設事業完遂に向け、お心をお寄せ頂ければ何よりの幸いに存じます。

結びにあたり県内神社の御隆昌及び御参集皆様方の御健勝を衷心より御祈念申し上げ、御礼の御挨拶と致します。

令和五年十月十三日

長野県神社庁長 滝和人
庁舎並氏子会館建設委員長

祭典次第

時刻斎主以下祭員参進し祭場所定の座に著く

次に修祓

次に斎主一拝

次に献饌

次に祝詞奏上

次に樂を奏す

次に斎主玉串拝礼

次に参列者玉串拝礼

次に撤饌

次に斎主一拝

奉仕者

所役 氏名 (役職・奉務神社)

斎主 滝和人(神社庁長・御嶽神社宮司)

副斎主 水野邦樹(神社庁副庁長・戸隠神社宮司)

祭員 有賀寛典(神社庁祭式講師・小井川賀茂神社宮司)

祭員 宮澤千尋(神社庁祭式講師・八幡神社祢宜)

祭員 諏訪雅彦(神社庁祭式講師・菅川神社宮司)

舞人 小穴真希(神社庁浦安の舞講師・神明宮権祢宜)

令和五年十月十二日 午後六時齋行

長野県神社庁本殿遷座祭奉仕者名簿

庁 長 滝 和人 (御嶽神社宮司)
 副 庁 長 水野 邦樹 (戸隠神社宮司)
 副 庁 長 宮坂 信廣 (四柱神社宮司)

各支部

南佐久支部 鷹野 健 (諏方社上下二座宮司)
 北佐久支部 水澤 貴文 (熊野皇大神社宮司)
 上小支部 立岩 千尋 (諏訪神社祢宜)
 諏訪支部 八木 勇三 (先宮神社宮司)
 上伊那支部 立澤 寿江 (矢彦神社宮司)
 飯伊支部 市原 日貴 (富士山稻荷神社祢宜)
 木曾支部 平山 甲之介 (御嶽神社祢宜)
 松塩筑支部 上條 雅彦 (須須岐水神社祢宜)
 南安曇支部 山越 秋穂 (大同神社祢宜)
 大北支部 内山 隼人 (仁科神社祢宜)
 更級支部 五明 健浩 (八幡社祢宜)
 更埴支部 宮沢 靖久 (粟狭神社祢宜)
 上高井支部 勝山 ひろみ (高杜神社宮司)
 下高井支部 片山 求 (小内八幡神社宮司)
 上水内支部 高山 岳人 (戸隠神社祢宜)
 飯水支部 高橋 穰 (健御名方富命彦神別神社宮司)
 長野支部 若槻 徹也 (蚊里田八幡宮宮司)

長野県神道青年会

会 長 立澤 俊輔 (矢彦神社祢宜)
 副 会 長 押森 慎 (山家神社宮司)
 委員 長 毛利 ゆき乃 (八幡宮祢宜)
 事務局 長 松井 泰智 (仁科神明宮祢宜)

長野県女子神職会

会 長 遠藤 綾子 (和泉神社祢宜)
 理 事 極意 靖世 (宇賀神社祢宜)
 会 員 水科 美香 (諏訪泉神社祢宜)
 会 員 小間澤 智子 (荒船山神社祢宜)

教化部各委員会

祭祀委員会 清住 邦廣 (子檀嶺神社祢宜)
 祭祀委員会 越 取 寛昭 (南宮神社宮司)
 教化委員会 羽 田 浩一 (仁科神社宮司)
 教化委員会 隱岐 有紀子 (神明宮祢宜)
 調査委員会 宇治橋 牧子 (三嶽神社宮司)
 調査委員会 森井 広宣 (岩崎神社祢宜)
 青対委員会 小間澤 貴子 (荒船山神社祢宜)

伶 人

上伊那支部 紫 芝 光司 (七窪神社宮司)
 上伊那支部 伊 藤 光森 (白山社祢宜)
 上伊那支部 花 畑 樹彦 (白山社宮司)
 上伊那支部 富岡 清彦 (諏訪神社祢宜)
 飯伊支部 宇佐 美真弓 (八幡社祢宜)
 飯伊支部 牧野 禎彦 (諏訪神社祢宜)
 飯伊支部 坂井 美春 (諏訪神社祢宜)

祭典指導

神社庁祭式講師 有賀 寛典 (小井川賀茂神社宮司)
 神社庁祭式講師 宮澤 千尋 (八幡神社祢宜)
 神社庁祭式講師 諏訪 雅彦 (菅川神社宮司)

「特別寄稿」

薙鎌の新たな理解を目指して 2

長野県立歴史館 特別館長 笹本 正治

長野県立歴史館特別館長笹本正治先生の論文の前号からの続きになります。『神州』では、長野県各地を涉猟され論究された論文を番号に分けて掲載しています。

2. 様々な形の薙鎌

前回は諏訪大社の薙鎌について触れ、現在のものは鳥のような形をしていると記しました。ところが、各地に伝わる薙鎌は形も大きさも一様でなく様々です。その代表的なものを確認しましょう。

蛇

小谷村中谷字宮の場にある大宮諏訪神社には沢山の薙鎌がありますが、小谷村村宝に指定されている蛇のような形をし

たものが最も有名です。長さ五九センチ、幅六・八センチという大きなものです。

飯山市豊田伊豆木原の健御名方富命彦神別神社に伝わる薙鎌のうち四口は、長さが七・八センチから六〇センチでさらに長く、蛇と鳥の中間のような形をしています。松本市里山辺の須須岐水神社にも多くの薙鎌が伝わり、蛇の形をしたものもあります。

トカゲ

川上村と南相木村の境にある御陵山(二八二メートル)山頂の祠の中から、薙鎌一・二点、剣形四五八点など八三三三

点、里宮から七点、三川山の神から鳥居形・棟札を含む七四点、板小屋から棟札・鑿など含む二八点がそれぞれ発見され、長野県宝に指定されました。形態は様々

ですが、圧倒的多くは写真のようにひよる長い、トカゲやタツノオトシゴを想起させるものです。飯

山市飯山有尾の飯笠山神社の薙鎌は、長さが一八・二センチ、最も広い部分の幅が四・五センチ、厚さが一ミリで、背後に羽が一三作られています。

この形態の薙鎌は旧御射山や八ヶ岳権現岳の檜峰神社などから発掘されています。また、諏訪大社上社が伝える天正十八年(一五九〇)の薙鎌もこれに近い形です。江戸時代以前の小型のものは、ほとんどがこの形だといえます。

タツノオトシゴ

東筑摩郡筑北村坂井楡窪の安坂神社あざかの薙鎌には、「奉安坂社大神奉加賀守藤原朝臣祐虎之」と「安坂社大神」の銘が



山神に捧げられた薙鎌(南相木村)

あります。長さは二一・八センチ、最大幅三九センチで、目の上から上に向かって先端が鋭角に尖った羽が二一ありま
す。尾部は三・二センチ程の返しがあり、
胴側に丸い穴があり、先端は剣状になっ
ていてタツノオトシゴの姿にみえます。
これはトカゲ形から派生したもので、意
図は同じでしょう。



安坂神社の薙ぎ鎌

鳥

長野市風間の風間神社に伝わる宝物
「風切鎌」は明らかに薙鎌ですが、嘴が
大きく鳥に近い形に見えます。長野市の
薙鎌はこの形が多いようです。

松本市岡宮神社の薙鎌も尖った口があ
るためでしょうか、鳥のように見えます。

現在の諏訪大社の薙鎌は鳥の形に見え
ますが、各地に残る古いものには案外鳥
の形のもの少ないようです。



長野市風間神社の風切鎌

その他

信濃国二宮にあたる辰野町の小野神社
では、一〇〇年ぶりに開けられた金庫の
中に薙鎌が入っていました。長さ八セン
チほどの小さなもので、返しも背の方を
向いていない、不思議な形です。鳥とも
胎児とも見えます。

松本市島立の沙田神社いさいただの薙鎌は長さが
二七・八センチで、「大庭住 藤森権左衛
門」の銘があります。見方にもよるので
しょうが芋虫のようにも見えます。

上田市武石小沢根の子檀嶺神社こまゆみねの御柱



弥彦神社の薙鎌(辰野町)

大祭では、諏訪大明神を神輿に奉還し、
御船・太刀・矛・薙鎌・斧等を調べ氏子
区域を巡るお練りがありますが、小中学
生も薙鎌、半弓、小長刀などで行列に参
加します。その薙鎌は武石公民館で保管
していますが、金属の鎌を加工したもの
で、刃の部分は銀色、そのほかの部分は
黒く塗られています。

佐久の新海三社神社には、横三六セン
チ、刃の幅六センチの大きな鎌が、長さ
一四六センチの柄の先に付けられてあり
ます。この鎌と一緒に柄とも一一九セン
チの長さがある熊手が縛られていて、こ
れが二セットあり、御射山祭の際の行列
に薙鎌とともに参加します。上田市の安
良居神社にもほとんど鎌の形の薙鎌があ
ります。

このように同じ薙鎌といって、形も大きさも異なっているのが実情で、特に近世以前にはそれぞれの場所で鍛冶屋などが作り、統一が図られていないようです。



安良居神社の薙鎌

3. 薙鎌の歴史

薙鎌を文献の側から見ると、延文元年（正平十一年、一三五六）に諏訪円忠が書いた『諏方大明神画詞』の御射山御狩条に、「四維ノ御柱ハ、四王擁護ノシルシ、九口薙鎌衆魔擢伏ノ利刃ナリ」とあり、十四世紀には薙鎌が存在し、衆魔を打ち破る武器として理解されていたことがわかります。

南北朝時代に成立した『神道集』の「諏訪縁起事」では、甲賀三郎が鬼王を撃退する武器として、維縵王より投鎌三口を受け取っています。投鎌は「今の世に御柱に投鎌を打つことはこの謂なり」とあ

り、鬼王に対抗する宗教的な武器として、御柱に打ち付けられていたようです。『諏方大明神画詞』の記載とつながります。寛正五年（一四六四）の『守矢満実書留』には、「内鎌打」と内鎌（薙鎌）を上社御宝殿に打ちつけたとの記事があります。

このように薙鎌は史料的には十四世紀半ばから見えますが、年号が記された現存する薙鎌として最も古いものは、これまで諏訪大社上社の宝物殿に展示されている天正十八年（一五九〇）に諏訪新六郎が奉納したものとされてきました。

今井黙天によれば小谷村大字千国乙にある千国諏訪神社の長さ二六センチの薙鎌に、天長五年（八二八）の銘があるといるのですが、藤森英一などは見ていません。一方で藤森は、この薙鎌を鎌倉時代かそれ以前のものとし、彼の見た中では最古に属するといっています。

同じ小谷村の中谷大宮諏訪神社の蛇形の長さ五九センチメートルもある薙鎌は、鎌倉期かそれ以前のものと思われるとして、村の文化財に指定されました。



中谷大宮諏訪神社の薙鎌

明治四十一年（一九〇八）に神社より長野県知事宛に出された「由緒訂正願」によれば、池田松会染の三社の御神体は薙鎌と御幣で、薙鎌はおよそ一〇〇〇年前のものだといえます。その通りなら、平安時代の薙鎌になります。

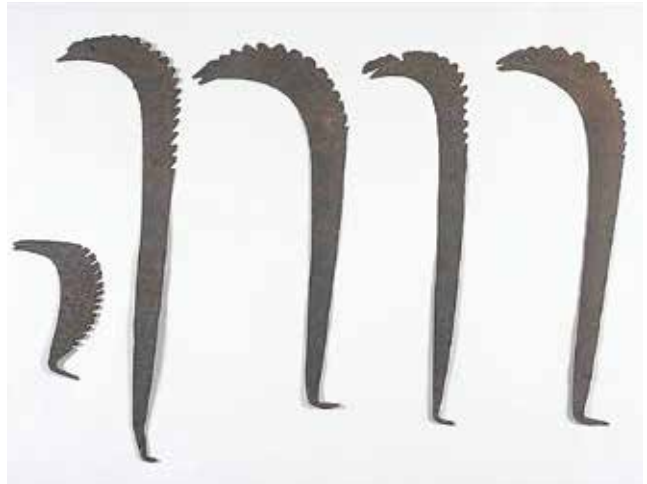
明治十三年（一八八〇）十二月二十三日作成の「信濃国神社寶物古器物古文书目録帳壱」によれば、佐久市白田の下ノ諏訪神社には薙鎌が三挺あり、文明元年（一四六九）のものだといえます。

中川村陣馬形山麓にある推定樹齡が六〇〇年といわれる丸尾の樞は、文明元年（一四六九）に神木と定められ、根元に祠を作って薙鎌を納めたと伝わります。

飯山市豊田伊豆木原の健御名方富命彦神別神社の薙鎌は文龜元年（一五〇二）

四月に堀之内で得たものと伝えられています。

長野県立歴史館所蔵の「佐久郡古跡名勝絵図3」に、「松原村神主」所蔵（現在は小海町畠山家所蔵）の薙鎌の拓本が二点採録されています。大きいものは長さが四四・五センチ、幅八センチで、「奉納松原上宮 神主諏吉 天文十八己酉正月吉日、勸進 慶阿細工鷹秀」の銘があります。天文十八年（一五四九）となれ



飯山市の健御名方富命彦神別神社の薙鎌

ば、銘が刻まれている現存する中では最も古いといえます。

諏訪大社上社本宮の宝物殿に展示されている薙鎌の一つは長さ二〇・八センチで、目より後に一二条、あるいは一五条の刻線があり、全長一六二・〇センチの木柄に墨書で「于時天正拾八年庚寅睦月

日 奉納諏訪新八郎」と書かれています。ほぼ同じ長さで、形態の異なる三種の鎌が付いています。これが従来最も古いものといわれ、旧御射山での発掘品と形も大きさもよく似ているので、薙鎌の原型を示すとされてきました。

薙鎌研究を大きく押し上げた考古学者の藤森英一は、「鎌倉時代ころ、開拓神としての信仰と結びつき、あの奇怪な薙



「佐久郡古跡名勝絵図3」の松原諏方神社神主家の薙鎌拓本（長野県立歴史館所蔵）

鎌が、薄い刃のない仮器の姿を現わしたのだろう」と推定しています。

現存で銘文を持つ古いものと思われる松原諏方神社神主家が所蔵する薙鎌は、長さが四四・五センチもあり、どちらかというと鳥形です。鎌倉期かそれ以前のものという中谷大宮諏訪神社の薙鎌は長さ五九センチメートルの蛇形です。飯山の健御名方富命彦神別神社の蛇形の薙鎌は文亀元年（一五〇一）に得られたとい

います。

このように、薙鎌といっても形態は多様であり、その目的も異なる可能性があります。その歴史は単純でなく様々な要素が複雑に絡み合っています。遅くとも中世には様々な形のものが存在していました。



諏訪大社上社所蔵の薙鎌

第五十五回全国諏訪神社連合大会を開催

此度、未だコロナ禍ではありますが、

令和元年以来となる第五十五回全国諏訪神社連合大会を開催致しました。十月十九日正午、下社秋宮を正式参拝、下諏訪総合文化センターを会場に宮坂徹下諏訪町長、滝和人長野県神社庁長、藤村吉彦県神社総代会会長等御来賓の御臨席を賜り、北は北海道、南は鹿児島県、全国各地の御分社宮司総代氏子崇敬者約三百名が出席して総会を行いました。講演は、上越市の御出身で新潟県美術家連盟会員、神話絵本『お諏訪さま物語』の著者川崎日香渥先生より「母神高志沼河比賣」語り継がれた伝承と文化」を演題にお話しを戴きました。今年の八月十五日の湖上花火大会のオープニングを飾った「諏訪大社鎮魂(Kiss of Fire)」続き「令和四千寅年諏訪大社式年造営御柱大祭」の映画を鑑賞、津軽三味線奏者勝又悠匠さんの素晴らしい演奏に大きな拍手が送られ

ました。

二十日は、約百名が上社本宮の齋庭に参列、午前九時より神徳敬仰奉賛祭が厳かに執行されました。その後、上社前宮を参拝、八ヶ岳や諏訪富士とも云われる蓼科山を望み、車窓いっぱいに広がる蓼科高原の紅葉を楽しみつつ車山スカイプラザに於いて解散式、昼食を戴き、二日間の大会を終了致しました。



令和五年度 長野県敬神婦人連合会総会講演

雅楽のはなし

講師 元宮内庁式部職業楽部首席楽長・日本芸術院会員 豊英秋先生

十一月十五日、長野県神社庁の新庁舎にて長野県敬神婦人連合会（小平しげ子会長）の総会が開催されました。総会に続き、元宮内庁式部職業楽部楽長、日本芸術院会員の豊英秋先生による「雅楽のはなし」の講演が催されました。

まずは六絃の楽器の和琴を用いて御神楽のさわりを演奏されました。六時

間に亘る宮中御神楽に奏される和琴は、神話時代に遡り最も格の高い楽器であり天皇御自らも奏された歴史があること、また時代が下



豊先生による演奏

り十九世紀のイギリスのビッグベンのチャイムの音階と共通することなど、奏楽を交えて紹介されました。このことから宮中と雅楽は歴史的に長いつながりがあり、宮内庁楽部は宮中行事や諸外国の接遇の折々に、たびたび皇室の方々からお気に掛けていただいていることを、ユーモアとウィットに富んだお話しから伺うことができました。また、先生ご自身の専門である管楽器の笙では、調子という曲が西洋の大変古い音楽に通じるものとして独奏されました。

次は天平時代の東大寺開眼法要に盛大に演奏された外来の雅楽に八多羅拍子というものがあり本邦にはないものとして、先生は三ノ鼓の桴を手に取り、長野雅楽会が演奏協力をして軽快

なりズムの演奏を紹介されました。

新庁舎建設をお祝い

され、来場者に馴染み

深い越天楽

の合奏を鑑

賞した後、

佳きことが

永遠に続く

願いが込め

られた目出

度い歌とし

て、朗詠「嘉

辰」を朗々

と歌唱され

ました。

このように神話時代から続く日本における雅楽の歴史、また長年奉職された宮内庁式部職業楽部での経験談など、実際の演奏を交えたおはなしは参加者に大変好評でした。



長野雅楽会との合奏

神道青年会報告

令和五年度 長野県神道青年会

会長 立澤俊輔

令和五年六月五日に第四十八回県下神職親睦球技大会を三年ぶりに木曾の地で開催しました。暑さに負けない熱い戦いがくり広げられ大成功、南信チームの優勝で幕を閉じました。戦いの後は、懇親会を盛大に行いました。



もう一つ、久しぶりとなったのが、七月十三日の靖國神社『みたままつり』の前夜祭への参列、翌十四日は、戦艦『三笠』や猿島に渡つての観光など充

実した研修をしました。

この他にも、恒例になりました三重県神道青年会との合同植樹事業や、災害対策研修、勉強会など多くの事業を行うことができました。また、令和六年二月には創立七十五周年の奉告祭、祝賀会を計画しております。

長野県神道青年会、これからも精一杯、学びながら遊んでいこうと思いますので、よろしくお願い致します。



教化部調査委員会「第2回 長野県神社御朱印展」来場者アンケート集計報告

令和4年に開催した御朱印展（11月2～8日松本市・四柱神社）において、来場者を対象にアンケートを行いました。性別、年代等の来場者基本情報、本展の感想、御朱印に対する一般の方の捉え方など、約1300人の声をまとめました。

右のQRコードをスマートフォンのカメラで読み込み、長野県神社庁ホームページから是非、詳細をご覧ください。

長野県神社庁 検索





不易流行
 不易は永久に変わらない本質的なもの
 流行は進化とともに姿を変えること

く ふえきりゆうこう く

和から洋に暮らしが変わっても かみさまに願う気持ちは変わらない。



写真提供・「神棚の里」静岡木工

お神札を丁寧にお祀りするという
 気持ちを大切にしつつ、令和の御代の
 住宅やオフィス・店舗に馴染む、新感
 覚の神棚やお神札立てが登場してい
 ます。
 洋間や石膏ボードにも簡単に取
 り付けられる工夫がされたり、賃貸
 ルームには場所を選ばない置き型も。
 伝統的な形からモダンなものまで
 姿も様々。日々の祈りの空間をコー
 デイネートしてみてはいかがですか。



神宮大麻頒布始奉告祭祭齋行

令和五年十月五日、神社庁仮殿に於いて神宮大麻頒布始奉告祭を齋行。左記の頒布優秀支部及び優良頒布奉仕者に対する表彰が行われました。(敬称略)

令和五年度

神宮大麻頒布優良奉仕者表彰者名簿

神宮大宮司表彰 支部表彰(一支部)

南佐久支部

神宮大宮司表彰 頒布奉仕者表彰(五名)

国分神社 宮司 今井貴美 上小支部

和世田社 宮司 大平英文 飯伊支部

八幡社 宮司 五明貴寿 更級支部

芋川神社 宮司 近藤邦彦 上水内支部

健御名方寅命彦神別神社

役員 伊倉順治 長野支会

神社庁長表彰 頒布奉仕者表彰(四名)

近津神社 祢宜 武者幸彦 北佐久支部

小玉川神社 宮司 青木立生 上小支部

諏訪神社 宮司 牧野弥寿子 飯伊支部

鼻顔稻荷神社

役員 水澤健治 北佐久支会

寄附者顕彰

令和五年四月

各神社からの申請により、左記金品の寄附者に対し感謝状が授与されました。赤誠の真心を奉納いただいた皆様に改めて感謝の意を表します。(敬称略)

敬称略

支部名	神社名・鎮座地	授与の理由	氏名
大北支部	諏訪神社(北安曇郡)	鳥居建設工事に多額の浄財	梶鷺澤建設代表取締役 鷺澤 尊
更級支部	布制神社(長野市)	多額の浄財	高澤 通泰
更級支部	天皇子神社(千曲市)	幟旗一对	宮坂 芳嘉
下高井支部	日和山神社(中野市)	多額の浄財	北村 忠彦
長野支部	玉依比賣命神社(長野市)	多額の浄財	中曾根和夫

辞令

令和五年七月

昇級・神職身分二級

諏訪泉神社	宮司	水科 稔	十一	上小
国分神社	宮司	今井貴美	十一	上小
子檀嶺神社	祢宜	宮原 久	十一	上小
武水別神社	祢宜	武井祥憲	十一	更級

任命

五閑神社	兼 宮司	山岸孝爾	九二	上高井
荒神社	兼 祢宜	唐沢光忠	十一	上伊那
祖霊社	兼 祢宜	唐沢光忠	十一	上伊那
白山神社	兼 宮司	竜野太一	十一一	北佐久
諏訪社	兼 宮司	竜野太一	十一一	北佐久
井子神社	兼 宮司	竜野太一	十一一	北佐久
八柱神社	兼 宮司	前澤三喜夫	十一二五	下高井
若宮八幡宮	兼 宮司	前澤三喜夫	十一二五	下高井
伊勢社	兼 宮司	前澤三喜夫	十一二五	下高井
新井神社	兼 宮司	前澤三喜夫	十一二五	下高井
高位牧神社	兼 宮司	前澤三喜夫	十一二五	下高井

新任

諏訪大社	権 祢宜	七野真一	九一	諏訪
諏訪大社	権 祢宜	杉原拓朗	九一	諏訪

辞職

白山神社	兼 宮司	渡邊 修	十三二一	北佐久
諏訪社	兼 宮司	渡邊 修	十三二一	北佐久
井子神社	兼 宮司	渡邊 修	十三二一	北佐久

退職

荒神社	祢宜	太田則子	七三二一	上伊那
祖霊社	祢宜	太田豊秋	七三二一	上伊那
宇賀神社	権 祢宜	田上美沙紀	九三三〇	上水内

婦幽 謹んで御霊の安らかなることをお祈りいたします

奉務神社	職名	階位・身分	氏名	婦幽日	支部名
若宮八幡宮宮司	職名	明階二級	岩戸雅彦	十五	下高井

令和4年度長野県神社庁歳入歳出決算書

歳入の部

(単位：円)

款	科 目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	幣 帛 幣 饌 料	710,200	740,000	△29,800	神社本庁より
2	交 付 金	112,860,000	113,618,000	△758,000	本庁交付金
3	負 担 金	33,445,000	34,165,000	△720,000	支部負担金、特別負担金、神職負担金
4	協 賛 金	3,602,000	3,762,000	△160,000	特別寄贈金
5	財 産 収 入	504,613	500,000	4,613	財産利子配当金
6	補 助 金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各 種 証 明 料	2,137,300	2,920,000	△782,700	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸 収 入	2,679,947	2,500,000	179,947	賽物収入、雑収入
9	管 理 費 収 入	600,000	600,000	0	関係団体管理費収入
10	過 年 度 収 入	137,500	200,000	△62,500	前年度未収金
11	繰 越 金	32,809,891	22,875,000	9,934,891	
	合 計	189,606,451	182,000,000	7,606,451	

歳出の部

(単位：円)

款	費 目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	53,876,240	53,876,240	0	支部を通じて各神社へ
2	幣 帛 幣 饌 料	8,438,340	9,000,000	△561,660	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会 議 費	5,458,986	5,200,000	258,986	会議旅費、諸費
4	庁 務 費	38,779,744	40,356,000	△1,576,256	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負 担 金	26,592,432	26,592,432	0	神社本庁へ
6	事 業 費	12,948,936	17,100,000	△4,151,064	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、神社振興対策費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研 修 諸 費	215,282	200,000	15,282	神社庁研修諸費
8	庁 舎 維 持 費	600,490	660,000	△59,510	修繕費、設備費、火災保険費
9	交 付 金	3,344,720	3,400,000	△55,280	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積 立 金	3,500,000	3,500,000	0	基本金積立金、役員退職積立金、五県連合総会積立金、神道昂揚資金積立金等
11	補 助 金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	新庁舎建設調査費	0	0	0	新庁舎特別委員会会議費・調査諸費等
13	予 備 費	0	22,065,328	△22,065,328	次年度初期運用資金及び予備費
	合 計	153,805,170	182,000,000	△28,194,830	

令和4年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出決算書

歳入の部



(単位：円)

	科 目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	負 担 金	3,285,000	3,275,000	10,000	支部負担金、神職掛金
2	交 付 金	700,000	700,000	0	繰入金
3	本 庁 見 舞 金	160,000	150,000	10,000	本庁見舞金6件分
4	雑 収 入	71	1,000	△929	利息
5	繰 越 金	6,323,036	5,874,000	449,036	繰越金
	合 計	10,468,107	10,000,000	468,107	

歳出の部

(単位：円)

	費 目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	災 害 慰 藉 費	1,354,500	3,685,000	△2,330,500	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神 職 掛 金	2,085,000	2,075,000	10,000	神職掛金積立金、神職掛金支払金
3	本 庁 災 害 慰 藉 費	204,015	250,000	△45,985	災害対策資金
4	運 営 費	990	60,000	△59,010	事務費、旅費、雑費
5	予 備 費	0	3,930,000	△3,930,000	
	合 計	3,644,505	10,000,000	△6,355,495	

 <h1 style="text-align: center;">謹 賀 新 年</h1> 						
長野県教育関係神職協議会	長野県女子神職会	長野県神道青年会	長野県敬神婦人連合会	長野県本部	長野県神社総代会	長野県神社庁
宮司 他 職 員 谷 一 同	長野縣護國神社	松本市美須々六番一号	名譽宮司 宮司 他 職 員 一 同	戸 隱 神 社	生島足島神社 池内宣裕 藤一勇 職 員 總 代 一 同	諏訪大社
宮司 大町市大字大町二〇九七	若一王子神社	宮司 他 職 員 一 同	武水別神社	手長神社	深志神社 名譽宮司 宮司 他 職 員 一 同	四柱神社 宮司 他 職 員 一 同
宮司 總 代 會 長	科野大宮社	宮司 總 代 會 長 佐久市田口鎮座	新海三社神社	富士山稻荷神社 宮司 職 員 總 代 一 同	飯田市浜井町 破魔射場鎮座 御嶽神社 宮司 滝 和 人	木曾總社 御嶽神社 宮司 武 居 哲 也



謹 賀 新 年



<p>宮司 矢彦神 宮司 立立澤 司宜 小野猛夫 祓禊 立立澤 長 野澤</p>	<p>宮司 梅戸神 宮司 今井理 宜宜 茅野 權宜 今井</p>	<p>宮司 三輪神 宮司 矢島正稔 祓禊 伊那郡飯島町</p>	<p>宮司 小菅神 宮司 丸鷲尾重隆 長 飯山市小菅の里鎮座</p>	<p>宮司 大星神 宮司 関口守和 長 飯山市小菅の里鎮座 眞田三代崇敬社</p>
<p>宮司 小川神 宮司 太田俊樹 長 大日方健治</p>	<p>宮司 大宮熱田神 宮司 山田充春 上水内郡小川村小根山鎮座</p>	<p>宮司 住吉神 宮司 飯田泰一 祓禊 松本市梓川梓鎮座</p>	<p>宮司 水無神 宮司 宮田伊織 祓禊 あづみ野</p>	<p>宮司 大御食神 宮司 白鳥俊明 長 木曾郡木曾町福島鎮座 新井亮彦</p>
<p>宮司 象山神 宮司 瀧澤理恵 祓禊 瀧澤</p>	<p>宮司 武井神 宮司 齋藤吉睦 長野市松代町鎮座</p>	<p>宮司 湯福神 宮司 齋藤安彦 祓禊 長野市東町鎮座 藤友里</p>	<p>宮司 八幡宮 宮司 神田ゆき乃 祓禊 長野市箱清水鎮座 利田</p>	<p>宮司 守田神 宮司 櫻井龍一 主任 成田眞一 會計 酒田</p>
<p>宮司 西宮神 宮司 丸山肇 祓禊 役員総代一同</p>	<p>宮司 荒井神 宮司 唐沢克忠 長野市岩石町鎮座 總代 矢島宏</p>	<p>宮司 仁科神明宮 宮司 松井秀吾 祓禊 伊那市荒井区 氏子總代 一志裕</p>	<p>宮司 鳩ヶ嶺八幡宮 宮司 伊原義雄 總代 高橋宣明 長 飯田市八幡町一九九九</p>	<p>宮司 小井川賀茂神社 宮司 有賀寛典 岡谷市小井川鎮座</p>

				
<p>権祿宜 宮司 永治持 はな子 祿宜 宇治橋 邦彦 宜 小穴 真希</p> <p>神 明 宮</p> <p>松本市村井町</p>	<p>権祿宜 宮司 宇治橋 幸彦 祿宜 宇治橋 邦彦 宜 横澤 雄</p> <p>小野 神 社</p> <p>塩尻市北小野鎮座</p>	<p>権祿宜 宮司 宇治橋 邦彦 祿宜 宇治橋 牧彦 宜 宇治橋 彦子</p> <p>三嶽 神 社</p> <p>塩尻市中西条鎮座</p>	<p>権祿宜 宮司 唐沢 光忠 祿宜 熊谷 修 宜 熊谷 修</p> <p>箕輪 南宮 神社</p> <p>箕輪町大字中箕輪木下一二五〇〇</p>	<p>権祿宜 宮司 山崎 佳宏 祿宜 塚田 稲</p> <p>有明 山 神社</p> <p>安曇野市穂高有明字宮城 彫刻で名高き裕明門</p>
<p>総代 祿宜 宮司 唐沢 光忠 會長 有賀 幹隆</p> <p>殿 村 八 幡 宮</p> <p>上伊那郡南箕輪村</p>	<p>権祿宜 宮司 沼房 誠一 祿宜 沼房 誠一 宜 沼房 誠一</p> <p>長沼 神 社</p> <p>長野市大町鎮座</p>	<p>権祿宜 宮司 白鳥 操俊 祿宜 白鳥 操俊 宜 白鳥 操俊</p> <p>大宮 五十鈴 神社</p> <p>駒ヶ根市赤穂鎮座 http://szuzujinja.com</p>	<p>権祿宜 宮司 齋藤 吉睦 祿宜 矢澤 龍一 宜 矢澤 龍一</p> <p>美和 神 社</p> <p>長野市三輪鎮座</p>	<p>権祿宜 宮司 伊藤 光宣 祿宜 伊藤 光宣 宜 伊藤 光宣</p> <p>白山 山 神社</p> <p>伊那市御園区鎮座</p>
<p>総代 祿宜 宮司 伴野 義重 會長 久野 義重</p> <p>稲 荷 神 社</p> <p>佐久市白田鎮座</p>	<p>権祿宜 宮司 高橋 晶穂 祿宜 高橋 晶穂 宜 松木 隆一</p> <p>健御名方富命彦神別神社 (国重文若宮八幡社) 飯山市五束鎮座</p>	<p>権祿宜 宮司 澤佳 廣 祿宜 澤佳 廣 宜 澤佳 廣</p> <p>洲 波 神 社</p> <p>安曇野市豊科南穂高</p>	<p>権祿宜 宮司 大澤 明三 祿宜 大澤 明三 宜 蜂谷 泉</p> <p>鹽 竈 神 社</p> <p>奥州一之宮鹽竈神社御分社</p>	<p>権祿宜 宮司 武藤 弘樹 祿宜 武藤 弘樹 宜 武藤 弘樹</p> <p>熊野 出速雄 神社 (皆神神社)</p> <p>長野市松代町皆神山</p>
<p>権祿宜 宮司 小間澤 貴肇 祿宜 小間澤 貴肇 宜 高橋 登子</p> <p>平 賀 神 社</p> <p>木曾郡上松町</p>	<p>権祿宜 宮司 高橋 登子 祿宜 高橋 登子 宜 高橋 登子</p> <p>諏 訪 神 社</p> <p>木曾郡上松町</p>	<p>権祿宜 宮司 宇治橋 栄淳 祿宜 宇治橋 栄淳 宜 宇治橋 栄淳</p> <p>神 林 神 社</p> <p>佐久市平賀鎮座</p>	<p>権祿宜 宮司 高橋 邦衛 祿宜 高橋 邦衛 宜 高橋 邦衛</p> <p>五 宮 神 社</p> <p>松本市神林鎮座</p>	<p>権祿宜 宮司 高橋 邦衛 祿宜 高橋 邦衛 宜 高橋 邦衛</p> <p>五 宮 神 社</p> <p>木曾郡南木曾町田立鎮座 県無形民俗文化財花馬祭り</p>



謹賀新年



<p>麻績神明宮 役員会長 峰田洋禎</p>	<p>東筑摩郡麻績村麻績座 重要文化財 宮司 宮下俊樹 祢宜 宮川和樹 総代 長上直光</p>	<p>八王子神社 宮司 平林秀文 [御朱印さんぽ]</p> 	<p>佐良志奈神社 宮司 豊城憲和 主任総代 中村仁志 外役員一同</p>	<p>千曲市若宮鎮座 支部長 上條哲哉 副支部長 小岐光洋 副支部長 小林司</p>	<p>神社庁松塩筑支部</p>
----------------------------	---	---	---	--	-----------------

編集後記

紀元二六八四年 昭和九十九年 平成三十六年
令和六年 長野県神社庁新庁舎元年
の年が始まりました。

コロナに始まる未曾有の変化を大変だ大変だと思う人々は幸いです。新しい時代に対応しようとしているからです。

一三八号の編集を終えあまりの変化に驚きこの変化を年二度の庁報で終わらせていいのかとため息がでます。

このような時「なご鎌」の記事を読むとほっとします。

本遷座は県下各支部・神社庁各会の代表により総勢四十五名で執り行われました。そのうち十三名、約三割が女子神職の御奉仕によるものでした。(表紙の写真・下の段の写真参照) なんとなく和む風景です。

今年から、山の上の新神社庁・氏子会館の時代がはじまります。関係各位がますます力を合わせ、斯界の新しい時代が朝日の豊栄登りに輝くことをお祈り致します。

編集長 山崎洋文



新神社片氏子会館



令和5年10月12日撮影

第二十六回

子供参宮団のご案内

今年度も「お伊勢さん」「伊勢の神宮」をお参り致します。子供参宮団を開催します。大勢の御参加をお待ちしております。

〈期 日〉

令和六年三月二十一日(木)
二十二日(金)

〈対 象〉

中学生以下
(小学生三年生以下は保護者同伴と致します)

〈旅行代金〉

一名 一万三千円
保護者 一万五千元

〈宿 泊〉

神宮会館

〈遊園見学〉

(未 定)

〈申込期限〉

令和六年二月十五日